

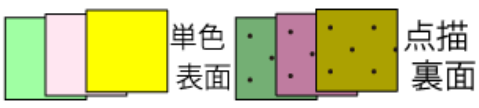
903　ケープの作り方

いるもの

□　表生地
□　お好みでボタンかスナップボタン
□　接着芯　（使用するえりの形による）　フラットカラー一大で計算した場合90cm幅で80cm
□　レースやフリル
□　生地の色にあった糸。伸びる生地でなければシャッペスパンの60番

使いやすい生地
●光沢が欲しい場合
ポリエステルサテン
幅が広く軽いのでおすすめです
●光沢が無い方がいい場合
アムンゼン　柔らかいポリエステルツイル
肌触りが良く幅も広く、軽くてドレープが綺麗に出ます。

コスプレの場合シワになりにくいポリエステルツイルやポリエステルギャバ・アーバンツイルなどがオススメ
ギャバはハンカチなどに比べ厚いが綿のツイルよりは気持ち薄く張りがあります。
ツイルは織り方の名称なのでお店によって厚かったり、薄かったり異なります（ギャバもツイルの種類のうちのひとつ）
そのため、通販で買う場合は色の確認もかねてサンプルを取り寄せするのをオススメします

 **本番前に必ず** **1/10 サイズを作って！** テープで組み立ててから 裁断に入ってください!! 勘違いや失敗が格段に 減ります！！  	うさこの型紙屋さんが作った型紙には1/10サイズの型紙がオマケで型紙の余白についています。 これを布を切る前に組み立てると、説明書の理解度が一気に上がります。 洋裁が、難しく感じるのは理解できないのではなく先が想像できないからです。 パズルと思ってテープで組み立ててみてください。 たった3～20ピース程度のパズルなんて簡単だと思いませんか？



レースやフリルをつけるときは、つけたい場所の１．５～2倍の長さのフリルやレースを付ける。

つけない場合は◎のついた説明は飛ばす。

フリルをつけるときは付ける場所の縫い代を1cmにする。

同じ倍率でも生地の張りや厚みでフリルのうねりやヒダの細かさが変わります。
柔らかいと細かくボリュームは控えめ。
張りがあるとうねりが大きく少ない量でもボリュームが出ます生地が厚いと厚みでギャザーを寄せられる量が限られます。
薄いものは倍率を多めに、厚い物、張りがあるものは倍率を低めにするのがコツ。 ◎



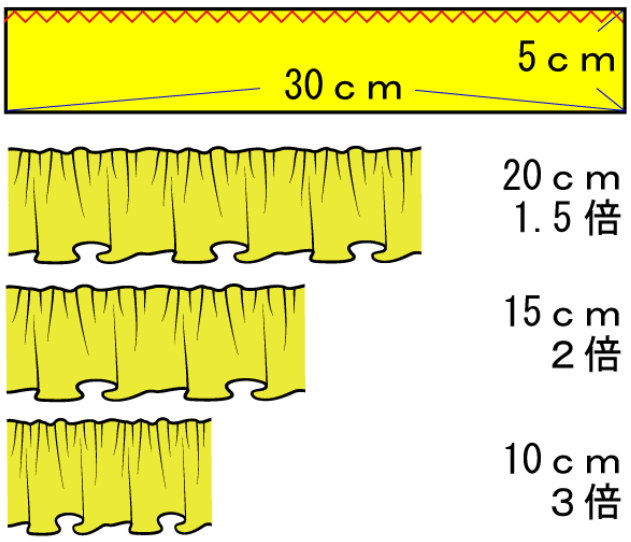



◎






◎

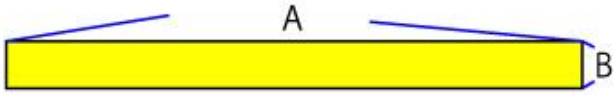
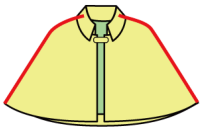
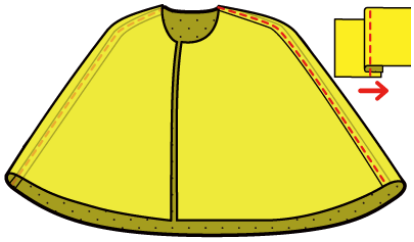
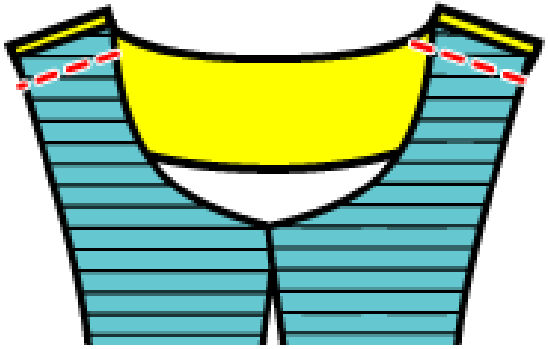
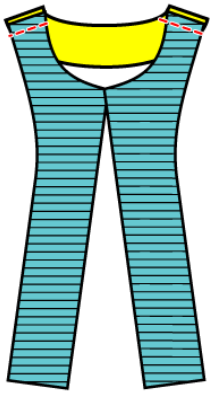


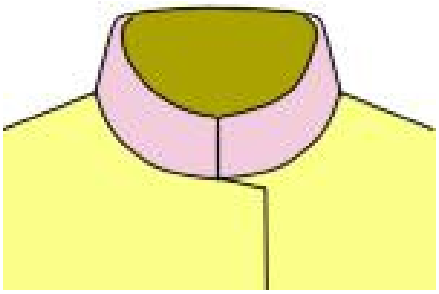
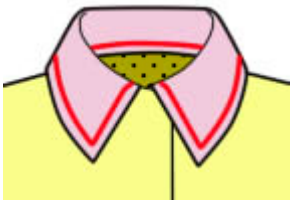
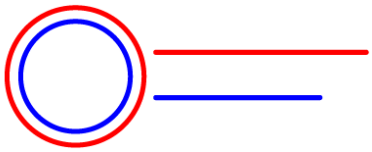
フリルのボリュームの決め方。

縦5cm、横30cmに切った生地を実際にギャザーを寄せて好みのボリュームになるまで縮めます。

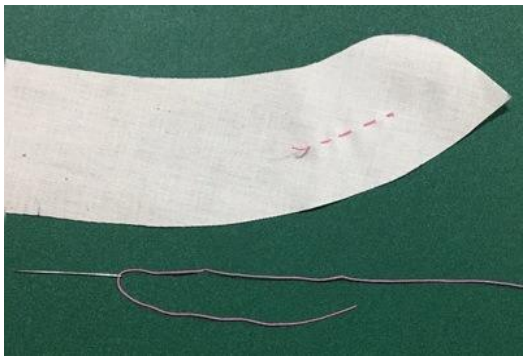
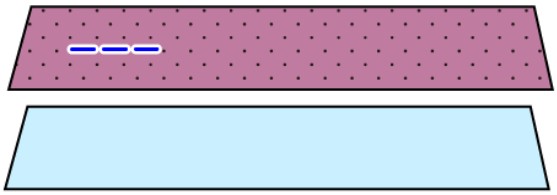
30cmを縮めた時の長さが20cm→1.5倍フリル
15cm→2倍
10cm→3倍フリルになります。
もっと細かく倍率が知りたい場合

30cm（縮める前の元の長さ）÷好みの幅まで縮めた長さ＝倍率です。 ◎

カーブにフリル 角にレースを付ける ◎	ただし角とキツイ曲線の所は、幅が広い程弧の長さが内外で異なるため、別途長さを調べる必要があります。 詳しくはQRコード先に動画で説明しています。
 長さが足りない場合はAの長さを2～3等分した長さで等分した枚数切ってつなげる。	A＝つけたい場所の長さの1.5～2倍+3cm B＝作りたいフリルの高さ+2.5cm ◎ 長方形に切る。
	 まっすぐ縫うコツ 前後の身頃（胴体）を表が内側になるように二枚重ねて縫う。 肩から脇を1cm幅で縫う。
	縫い代を後ろ側に折る。 表の縫い目から2mm位の所を縫って、縫い代を固定する。
	  見返しを表同士が内側になるように重ねる。 肩を1cm幅で縫う。 縫い代は左右に広げる。

<table>
<tr>
<td>★
スタンドカラーの縫い方
スタンドカラーの縫いかた</td>
<td>えりを表側同士が内側になるように重ねる。
1㎝幅で縫う。

<u>シャツカラーの縫い方は一番下</u>へ　★</td>
</tr>
<tr>
<td>★生地の厚み分のゆるみを入れる

スタンドカラーの縫い方</td>
<td>えりは首に沿って筒状に作るので、布の厚み分生地の内外で長さの差が出る。

例えると二重丸の外と内の円では同じ円でも長さが異なる。

外側の生地の方の円周が長く必要なのに、ピッタリ合わせて縫うと円周の差の分が足りなくてひきつるのでその差を作る必要がある</td>
</tr>
<tr>
<td>★
</td>
<td>えりは首に沿って丸く付けるので、布の厚み分内外に長さの差が出る。

その為内側と外側で差をつけて縫う必要がある。

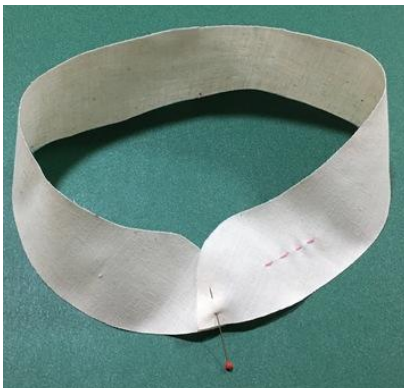
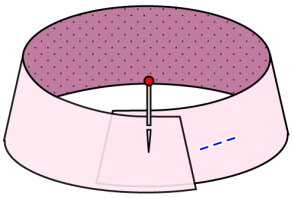
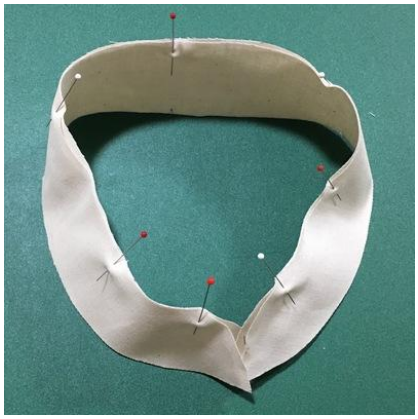
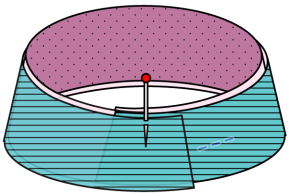
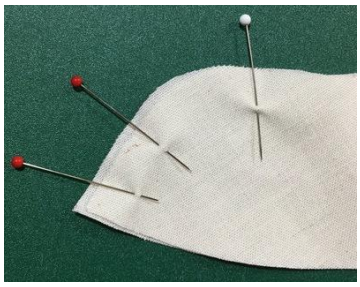
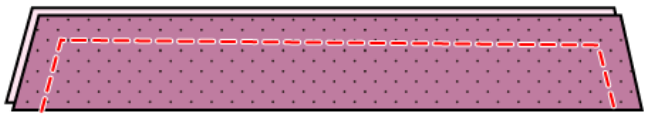
後でその差を入れた方向が分からなくならないように、接着芯を貼っていない方に糸で3～4針縫って印を付ける。

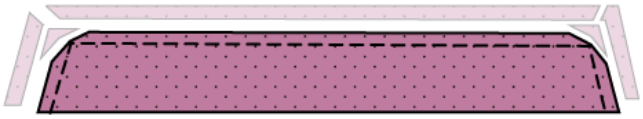
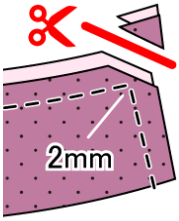
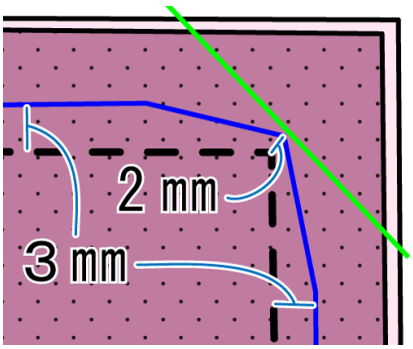
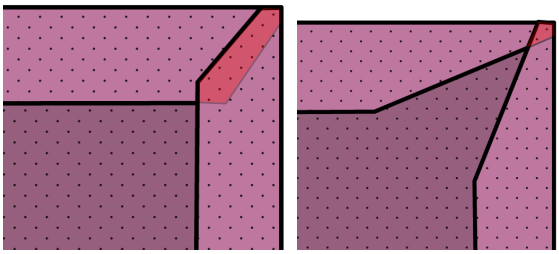
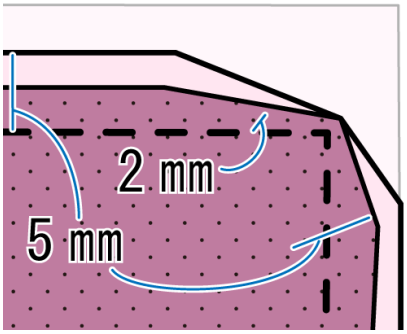
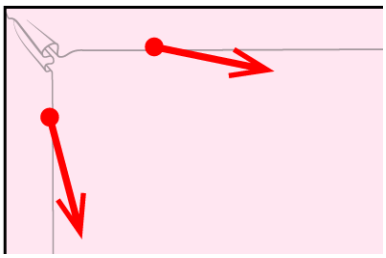
両方に芯を貼った場合は、どちらか片方に印をつける。

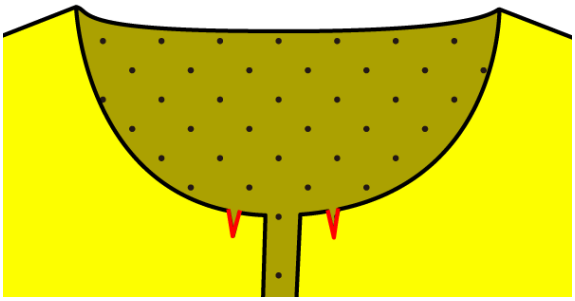
後で抜くので玉止めなどは不要。</td>
</tr>
<tr>
<td>★</td>
<td>左が内外に差をつけて縫ったもの。
右は差を付けずに縫ったもの。

差を付けずに縫うと外側が長さが足りない為変なしわが入る。

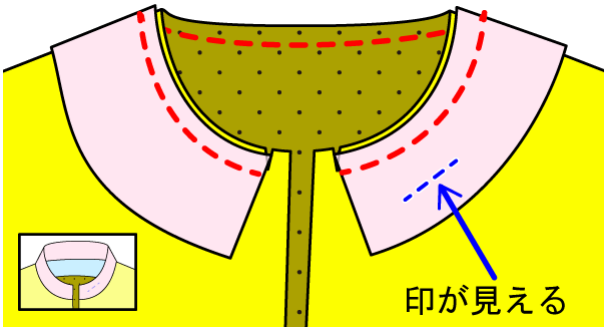
えりは目立つところなので、一手間かかりますが綺麗に仕上げたいですよね。</td>
</tr>
</table>

★	 印を付けた方の襟表側が見えるように中心を止める。
★	 その上にもう一枚のえりを、裏が見えるように重ねる。 実際に襟を立てた状態で真ん中からマチ針を刺す。 ひきつらないように前まで針を刺す。
★	前を外して端にも針を刺す。この時手縫いの縫い目のない方が短くなるのが正解です。 布の切り方が適当だった場合は、ずれないこともある。
★	レースの端処理 適切な円周の長さにして縫うとこのように襟が綺麗になります。 えりにもレースを付ける場合はQRコードの先に詳しくまとめています。
★	えりの表同士が内側になるようにに 重ねる。 1㎝幅で縫う。

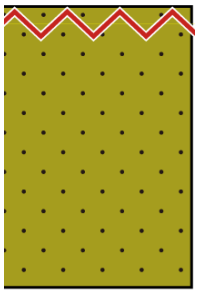
★ 	 縫い代を5mm幅残して切る。 縫い目を切らないよう0.2cm程はなれた所で、角を切り落とす。
 ★	薄い生地や色の淡い生地は、表に縫い代の形が透けて見える事があるので、縫い代の幅を変えて切ると目立たない。 糸の印を付けていない方の襟の縫い代を3mm幅に切る。 角から2mm離して斜めに切る。
 ★	角の縫い代を斜めに切る時は鋭角に切る理由。 ただ斜めに切っただけだと縫い代を折り畳んだ時重なり分が多いので厚くなりやすい。 鋭角にすると重なり分が減って角がすっきりする。
 ★	もう一枚の縫い代を5mmに切る。 逆の順で切ると切りにくいので、先に3mm次に5mmの順で切る。 こうすると縫い代の端がずれるのでアイロンをかけた時中の縫い代の形が、少し目立ちにくくなる。
 きれいな角の折り方 ★	角が丸くなる場合 中で縫い代がグチャグチャになっているのが原因。布の内側に指を入れて、縫い代を角と反対側に軽く引っ張ると中の縫い代が整い、角が出る。
★ 	表に返して、表から0.5cmのところを縫う。

<table>
<tr>
<td></td>
<td>前中心に印がついているか確認する。

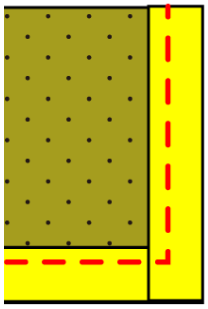
えりを付けるための重要な印なので、つけ忘れていたら、必ず写す。

縫い代のカーブ</td>
</tr>
<tr>
<td>
</td>
<td>スタンドカラーの場合、糸の印のあるえりを上側にして、えりの端を前中心（FNPの記号があるところ）の印の所にあわせる。

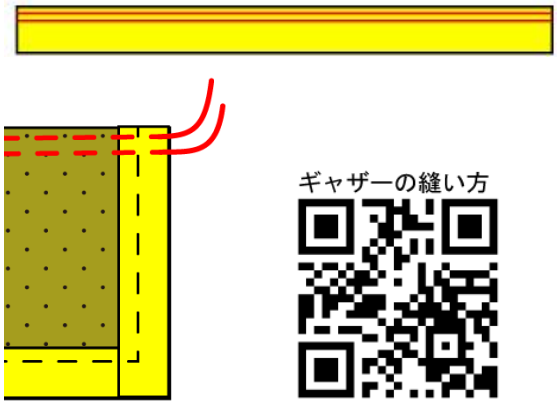
前をボタンやスナップボタンで合わせるお洋服は、前中心に重なり分があるので、えりは端にあわせるのではなく必ず、前中心の印に合わせる。

仮固定なので、端から5mm幅で縫う。</td>
</tr>
<tr>
<td>
</td>
<td>すそにフリルを付ける場合。

長さが取れなかった場合はつなぎ合わせて作りたい長さにする。

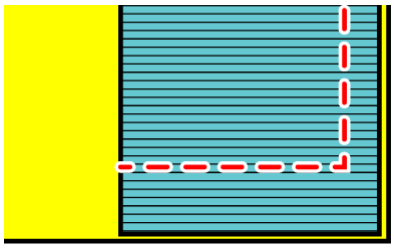
ギャザーを引っ張る時に端がほつれやすいので、ギャザーを寄せる辺は必ずほつれ止めをする。</td>
</tr>
<tr>
<td>
三つ折りの仕方</td>
<td>横と下を7mmの三つ折りにする。

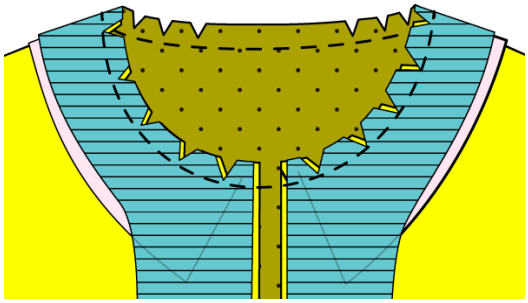
5mm幅で縫う。</td>
</tr>
</table>

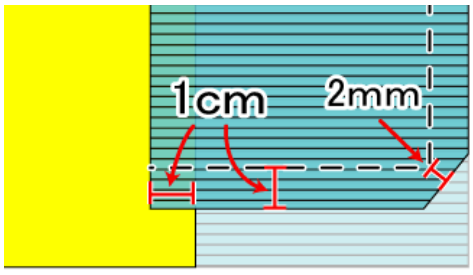
<table>
<tr>
<td>
</td>
<td>ギャザー縫いをする。

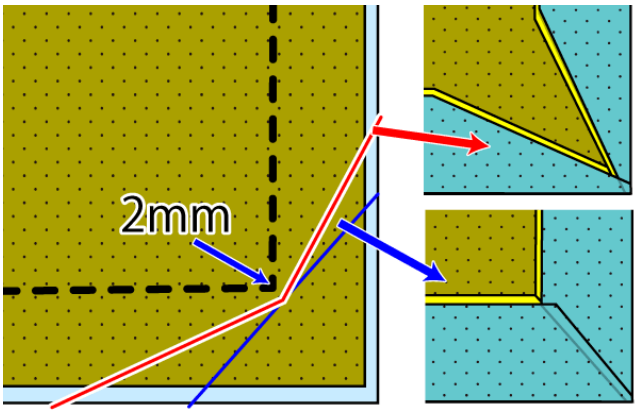
上端から3mmと7mmの所を2本縫う。

ギャザーの縫い方の詳細は別紙の【型紙の使い方と縫う前の下準備】参照</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>フリルとケープを表同士が内側になるように重ねる。

1cm幅で縫う。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>フリルやレースを付けなかった場合はすその縫い代は2cm幅で縫う。
フリルを付けた時は1cmで縫う。

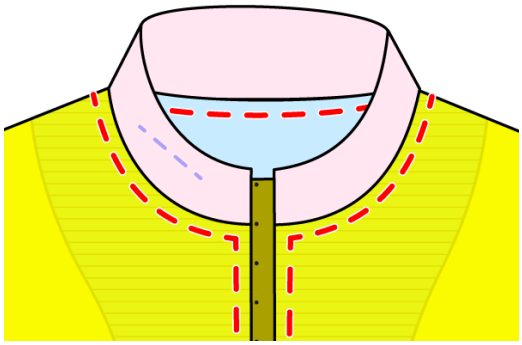
そでロやすそは縫い代が少ないと反りやすいので、フリルなどを付けない場合は2cmで作る。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>縫い代のカーブ
引きつり防止に首のカーブの縫い代を5mm幅になるように切り落とす。

1～1.5cmおきに切り込みを入れる。</td>
</tr>
<tr>
<td>
</td>
<td>すその角の縫い代の始末
見返しのすそは図のように1cm残して切る。
フリル・レースを付けた場合はここは不要。</td>
</tr>
</table>



斜めにまっすぐ切るだけだと、中で縫い代が重なる部分が多い為、先が丸くなりやすい。

深く斜めに切ると、折ったときに重なりが減るので、角がきれいに出やすい。





見返しを裏へ返し、えり首の縫い目から5mmの所を縫う。



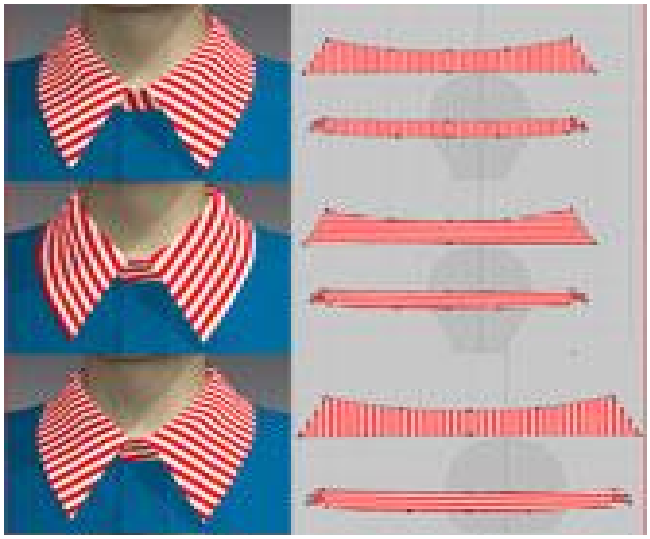
フリルをつけた場合

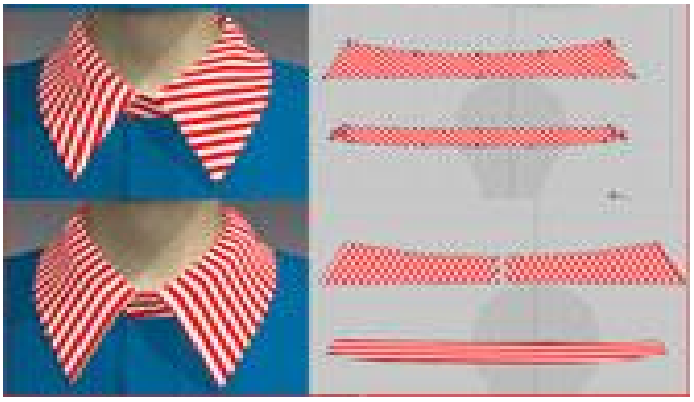
フリルを起こす。

縫い代はケープ側に折る。

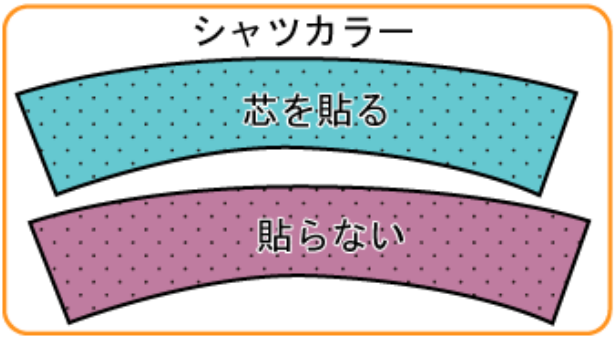
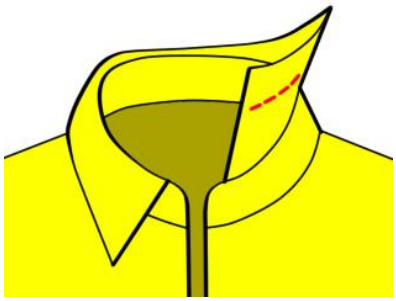
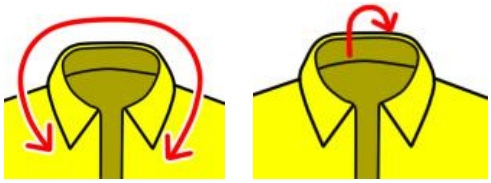
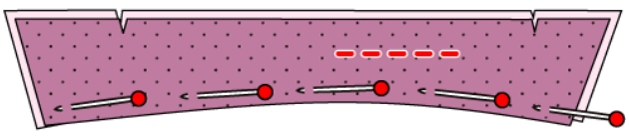
ケープのすそから5mm幅で縫う。

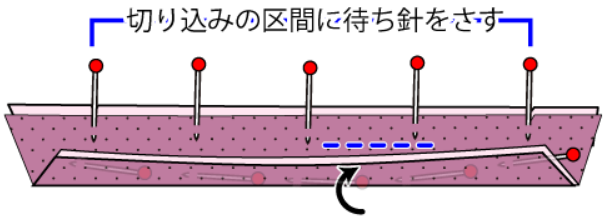
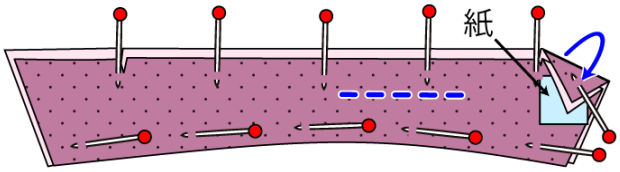
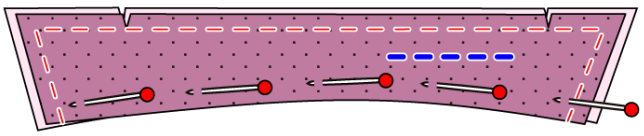
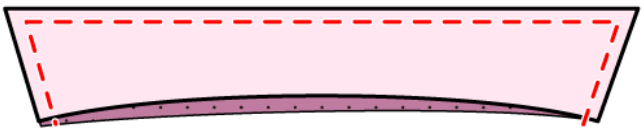
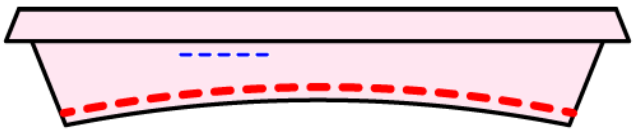
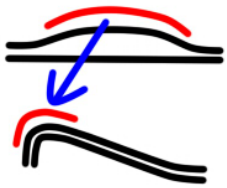
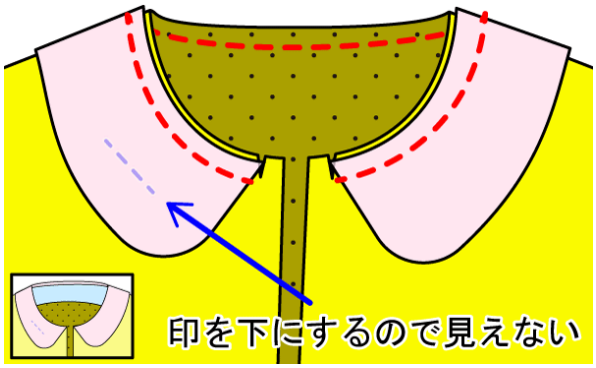
シャツカラー・フラットカラーの縫い方形は違いますが縫う手順は同じです。

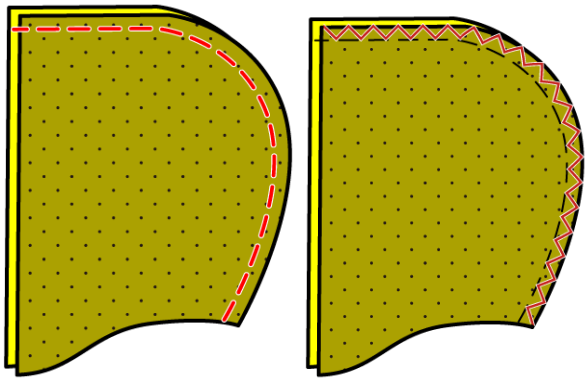
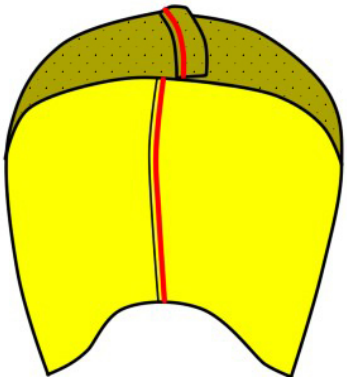
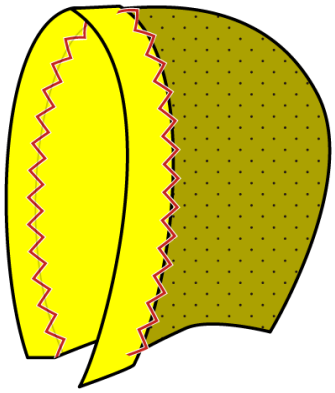
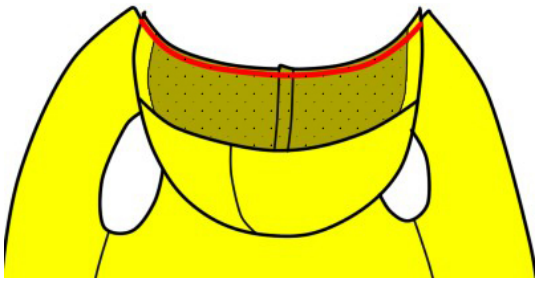




えりの柄の向きと実際の柄の出方のめやす。
※ただしカーブの大きい襟の場合また変わってきます。

	厚い・張りのある生地は2枚中1枚の裏側に接着芯を貼る。 薄く柔らかい生地の場合、えり二枚とも裏に芯を貼る。 詳しくは別紙の【型紙の使い方と縫う前の下準備】参照
 シャツカラーの縫い方	 どちらが表から見えるえりか、裏に隠れるえりかわからなくなりやすいので、しつけ糸などで、接着芯を貼らなかった方に目印をつける。 完成したら抜くので玉止めなどはしなくていいです。
	えりのゆるみを作る。 このタイプのえりは図のように表に折り返すためのカーブと首にそったカーブがあります。
	外側のカーブと内側のカーブでは外側のほうが長く、内側が短くなります。
	その差を補うために2～3mm表になるほう（外側に折り返すほう）を内側に入れ込んで、長さを調節する必要がある。 これをしないと写真の右のえりのように、長さの不足する表側のえりが引きつってえりの先があがってしまう。
	印を付けたえりを上にして置く。 表えりの短い辺の方を待ち針で止める。

	短い辺の方を上側に5～10mm折る。 すると生地の厚み分生地がずれるので、そのズレを消さないように待ち針を刺す。
	角を斜めに折って待ち針を刺す。 これで布の厚みに応じた適切なゆるみが入る。 この時下の生地まで針が刺さって刺しにくい時は、紙を間にはさむと下まで刺さりにくくなります。
	1cm幅で縫う。 下側の狭い辺は台えりと合わせるので縫わない。
	表に返してアイロンで形を整える。 5mm幅で縫う。 角がミシンの針穴に食い込みやすいので、セロファンがあれば角の下に敷いて縫うと食い込みにくくなる。
	印がある方へえりの端を折る。 えりの端を折ったまま端から5mm幅で縫う。
 断面図	こうすると図のように外側に見えるえり（糸の印のない方）が膨らむ。 このふくらみがえりを折り曲げた時の必要な長さの差なので、膨らむのが正しい。
	えりの糸の印のある面を下にして身頃に重ねる。 えりの端は、身頃の前中心の印に合わせる。（FNPの印の所） 端から5mmの所を縫う。 ここから後は、スタンドカラーと同じです。

	2枚のフードの生地を表同士が内側になるように重ねる。 1cm幅で縫う。 2枚一緒にほつれ止めする。
	縫い代をどちらか片方に折る。 縫い目から5mm幅で縫い、縫い代を固定する。
	顔が出る所の縫い代を2cm裏側にアイロンで折る。 1.5cm幅で縫う。 ニットの場合。3点ジグザグで縫い代の端をまたぐように縫う。 ニットは端が丸まりやすい生地があるので、幅広に縫うと丸まりを抑えられる。
	フードの表と、身頃（胴体部分）を表側同士が内側になるように重ねる。 デザインにもよりますが大体のフードは前中心の印に襟の端を合わせる。 ここから後は、スタンドカラーと同じです。